

母体外因研究班議事録

昭和52年度母体外因研究班総会

本年度は3年間の予定で始まった母体外因研究班の初年度にあたり、特に今後の研究方針および研究計画についての活発な討論と現在までの研究成果の発表とが行なわれた。厚生省母子衛生課から中原俊隆主査、また評価委員の小林隆および沢崎千秋両名誉教授の御出席をいただいた。

〔日時〕 昭和53年3月7日(火曜日) 午後3時30分～午後8時30分

同 3月8日(水曜日) 午前10時～午後4時

〔会場〕 東京ステーションホテル「藤の間」(東京都)

〔出席者(敬称略,順不同)〕

- 主任研究者(班長): 鈴木雅洲
- 厚生省母子衛生課: 中原俊隆(主査)
- 評価委員: 小林隆(日赤医療センター院長), 沢崎千秋(日大名誉教授)
- 分担研究者(幹事,分科会長): 前田一雄(鳥取大産婦人科), 吉野亀三郎(東大医科研ウイルス部), 松山栄吉(愛育病院), 鈴木雅洲(東北大産婦人科)。
- 分担研究者(班員): 広井正彦(山形大産婦人科), 水野正彦(東大産婦人科), 一戸喜兵衛(北大産婦人科), 竹村晃(阪大産婦人科), 井出正男(武蔵工大電気通信), 竹内久彌(順天堂大産婦人科), 中尾亨(札幌医大小児科), 常松之典(帝京大寄生虫学), 藤井仁(愛育病院産婦人科), 清水哲也(旭川医大産婦人科), 古谷博(順天堂大産婦人科), 藤森博(国立岡山病院産婦人科)
- 代理出席: 東山秀馨(京都府立医大産婦人科), 森崇英(京大産婦人科), 川名尙(東大産婦人科), 千葉峻三(札幌医大小児科), 安部徹良, 赤間正弘(以上東北大産婦人科), 倉林道男(順天堂大産婦人科), 沼崎義男(国立仙台病院ウイルスセンター)
- 事務担当責任者: 阿保秀夫(東北大産婦人科)
- 分科会事務担当責任者: 寺原賢人(鳥取大産婦人科), 鳥羽和憲(東大医科研ウイルス部), 沢田啓司(愛育病院小児科), 高林俊文(東北大産婦人科)

〔議事〕 <第1日>

昭和53年3月7日午後3時30分～午後8時30分

I 班長挨拶(開会) 鈴木雅洲

昭和52年度心身障害研究費補助金による母体外因研究班の研究組織構成および本総会開催の趣旨説明

II 研究報告

各分科会長が座長をつとめ、分担研究者が研究協力者の分もまとめて一括して報告した。また座長が分科会全体の研究成果、今後の研究方針を述べ、その都度評価委員および各分担研究者との間に質疑応答があった。

(1) 超音波パルス波の胎児に対する安全性に関する研究(超音波分科会)

座長 前田一雄

① 超音波パルス波の染色体に及ぼす影響に関する研究

○前田一雄, 坂元正一, 清水哲也

- ② 超音波パルス波の胎児・母体生理に及ぼす影響
 - 竹村 晃, 中村徹, 穂垣正暢, 関場 香
- ③ 超音波装置の開発・改良に関する研究
 - 井出正男, 諸橋侃, 竹内久彌
- ④ 超音波胎児診断による心身障害発生の疫学的研究
 - 竹内久彌 他
- ⑤ 合同疫学調査に関する討議
- (2) 母体外因による異常胎児発生の疫学的・臨床医学的・保健医学的研究。(異常環境分科会)
 - 座長 鈴木雅洲, 水野正彦
 - A 実験的研究の研究結果発表
 - ① 経口避妊薬服用後妊娠 又は月経不順婦人妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
 - 広井正彦, 岡田弘二, 美甘和哉, 西田悦郎
 - ② 排卵誘発妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
 - 水野正彦, 鈴木雅洲, 豊田 裕, 森 崇英
 - ③ 高年令婦人の妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
 - 一戸喜兵衛, 藤原 篤, 福島 務, 鈴木秋悦
 - B 疫学的研究の研究結果発表
 - ④ 本年度の合同疫学調査の研究方法について
 - 鈴木雅洲他(赤間正弘代理報告)
 - ⑤ 疫学調査(集計責任者からの報告)

年 令	○一戸喜兵衛
月経周期異常	○広井正彦
経口避妊薬	○岡田弘二(東山秀聲代理報告)
排卵誘発剤	○森 崇英
異常妊娠	○水野正彦
嗜好品	○鈴木雅洲(安部徹良代理報告)
- ⑥ 合同疫学調査に関する討議

Ⅲ 評価委員による評価

沢崎千秋委員より、超音波連続波ばかりでなく、超音波パルス波の使用量も増加しており、その安全性の確認は急務であること、また異常環境下における異常胎児の発生の原因求明に対しより努力をしてほしいとの発言があった。

Ⅳ 班長挨拶 鈴木雅洲

早朝からの研究班の発表の労に対し、謝意を述べられ、第1日目が終了した。

《第2日》

昭和53年3月8日(水曜日)午前10時～午後4時《第2日》

I 班長挨拶 鈴木雅洲

昨日に続き、妊婦貧血分科会および母体感染分科会の研究成果の報告会開催の挨拶があった。

II 研究報告

昨日と同様に、分科会長が座長となり、分担研究者の発表があり、その後評価委員との質疑応答があった。

- (1) 妊婦貧血の胎児に及ぼす影響についての臨床的及び疫学的研究(妊婦貧血分科会)

座長 松山栄吉

- ① 妊婦の貧血と新生児の血液障害に関する研究
○古谷 博(倉林道男代理報告)
 - ② 妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究
○清水哲也, 永井生司
 - ③ 妊婦の貧血と周産期障害に関する研究
○藤森 博, 関場 香, 高知床志
 - ④ 妊婦の貧血と胎児・母体におよぼす影響に関する研究
○藤井 仁, 有広忠雅, 河上征治
- (2) 母体感染による胎児異常発生予防に関する研究。(母体感染分科会)

座長 吉野亀三郎

- ① ヘルペスウイルス感染に関する研究
○吉野亀三郎, 川名 尚
- ② サイトメガロウイルス感染に関する研究
○中尾 亨(千葉峻三代理報告), 沼崎義男
- ③ トキソプラズマ感染に関する研究
○常松之典

III 評価委員による評価

小林隆委員より, 排卵誘発剤投与にて生児を得た場合, 将来の精神発達などについて危惧されること, また分科会のテーマも解明ばかりか, 予防についても検討している様なので好ましいことであり, 新しいデータに触れたことをありがたく思っているとお話があった。

沢崎千秋委員より, 最近母体の環境因子が複雑になってきたのでその解析は困難と思うが, 頑張ってもらいたいとのこと, また全国からの結果が集約できるので班研究は大切であることなどのお話があった。

IV 厚生省挨拶 中原俊隆

学問的にも興味あるテーマであるが, 行政担当をしているものとしては分母の増加をはかってほしいとの要望および挨拶があった。

V 班長挨拶(閉会) 鈴木雅洲

今年本研究班の初年度にあたり, 着手したばかりの研究もあったが, 今後共頑張ってもらいたいこと, 2日間にわたる会議の労に対し謝意を述べられ, 閉会となった。